

修士論文（要旨）  
2014年1月

ストーリーテリングから見る中国人日本語学習者の言語表現の特徴  
— 接続表現を中心に —

指導 堀口純子 教授

言語教育研究科  
日本語教育専攻  
211J3013  
趙曉君

## 目次

第1章 研究の背景と目的	1
第2章 先行研究の概要と本研究の位置づけ	2
2.1 先行研究の概要	2
2.2 本研究の位置づけ	3
第3章 予備調査の概要と結果	3
3.1 予備調査協力者	3
3.2 調査方法	4
3.3 文字化の方法	4
3.4 予備調査の結果	5
3.5 本調査への方向付け	5
第4章 本調査の概要	6
4.1 調査協力者	6
4.2 調査方法	6
第5章 中国人日本語学習者(CS)のストーリーテリングの接続表現	7
5.1 接続表現の定義と分類	7
5.1.1 接続表現の定義	7
5.1.2 接続表現の文の接続関係による分類	7
5.1.3 接続表現の文脈展開機能による分類	9
5.2 CSの接続表現の分析	10
5.2.1 CS1の接続表現	10
5.2.2 CS2の接続表現	13
5.2.3 CS3の接続表現	17
5.2.4 CS4の接続表現	19
5.2.5 CS5の接続表現	22
第6章 日本人母語話者(JS)のストーリーテリングの接続表現	25
6.1 JS1の接続表現	25
6.2 JS2の接続表現	28
6.3 JS3の接続表現	30
6.4 JS4の接続表現	32
6.5 JS5の接続表現	34
第7章 総合的考察	37
7.1 全体的な特徴	37
7.2 CSとJSの意識	40
第8章 まとめと今後の課題	41
8.1 まとめ	41
8.2 今後の課題	41
参考文献	I
添付資料1:同意書	i
添付資料2:アンケート	ii
添付資料3:文字化データ	iv

本研究では、伝える場面としてストーリーテリングという場面を設定し、中国人上級日本語学習者（CS）を対象として、日本人母語話者（JS）にストーリーテリングを行った。CSとJSは全員女性で、友人関係である。CSが映画のストーリーをJSに話し、その後JSが聞いた内容をCSと参与観察者である稿者に話した。それを通して、学習者と日本人の発話を収集し、学習者のストーリーテリングにどのような言語表現の特徴があるかを明らかにするために、談話を組み立てる表現としての「接続表現」に焦点を当てて分析した。

接続表現の意味・用法を踏まえながら、接続表現の文脈展開機能を中心に、まずCSの一人一人の接続表現、次にペアのJSの接続表現、さらに全体の接続表現を種類ごとに分析し考察を行った。

その結果、CSの使った接続表現にはそれぞれの特徴があるが、いくつかの共通点が見られた。まず、接続助詞については、CSは「て形」の「動作の推移・連続」という用法を最も多く使って、発話を続けるためにその「話を進める機能」を利用していた。そして、接続詞については、CSは「で」の使用が多く、それによって「話題継続機能」の中の「話を重ねる機能」、「話を進める機能」、「話を変える機能」、「話を深める機能」を果たしていた。この点は先行研究と予備調査の、CSはあまり「で」を使わないということと違う結果が見られた。その他の接続表現については、CSは「とき」にかかわる接続表現を使った。その理由として、母語の影響をある程度受けていると考えられるが、JSの発話でも「とき」という接続表現が出現したことから、「とき」が話を展開する機能を持って使われたとも考えられる。

さらにまとめると、CSが使った接続表現からは、それが話の展開に重要な役割を果たすとCSが意識している様子が見られた。発話の連続性を保持することを過剰に意識して接続表現を使った結果、「て形」や「で」の濫用が起きてしまうということが分かった。

分析において、CSが使った接続表現に特徴的なものが見られたが、それに対するJSの指摘は少なかった。JSは接続表現の意味や機能にはあまりこだわらず、CSの発話の前後から推測したりして内容を聞き取り、全体的な伝わりに注意していることが分かった。ここに、JSは聞く際に、CSの発話のつながりより内容の理解を重視するという聞き手としての意識が見られた。

分かりやすく伝えるために、日常の中で伝え方を工夫する必要があることも分かった。CSも本調査のストーリーテリングのような、自身の日本語を練習して運用する機会を望んでいる。教室活動などにストーリーテリングという方法を取り入れることが必要であろう。このような方法なら、学習者が本調査のように、楽しく積極的に参加しながら、伝える能力を向上させることができると期待される。

以上のように、本研究ではストーリーテリングという伝える場面において、学習者が使う接続表現の特徴をあぶり出したことで、学習者の言語使用の実態がある程度捉えられたと考える。本研究で得られた知見が学習者側にも教育者側にも参考になれば幸いである。

本研究は接続表現に焦点を当て分析を行ったが、接続表現の分類や認定基準、「て形」の意味・用法などについては今後さらに検討すべきである。そして、接続表現の文脈展開機能を中心に分析したが、それぞれの意味・用法などについて深く論じられなかった。これらのことを今後の課題としたい。

キーワード：伝える、ストーリーテリング、接続表現、接続表現の文脈展開機能

## 参考文献

- 市川孝 (1978) 『国語教育のための文章論概説』 教育出版
- 石島満沙子・中川道子 (2004) 「日本語母語話者の独話に現れる接続詞「で」について」『北海道大学留学生センター紀要』第8号 pp. 46-61
- 伊豆原英子・嶽逸子 (1992) 「中・上級学習者の話し言葉 (独話) の分析と考察—情報伝達を通して—」『日本語教育』第77号 pp. 103-115
- 烏日哲 (2012) 「中国語を母語とする日本語学習者の語りの談話における表現と構造—日本語母語話者との比較を通して—」 URL: <http://hdl.handle.net/10086/22863>
- 王蕊 (2009) 「日本語上級レベル学習者の接続表現の使用状況に関する調査—中国語母語話者のストーリーテリングテストを中心に—」『ポリグロシア』17 pp. 117-128
- 尾崎明人 (1981) 「上級日本語学習者の伝達能力について」『日本語教育』第45号 pp. 41-52
- 角田三枝 (2007) 「テ形接続と接続表現のシ: 「節接続とモダリティの階層」との関係」『成城文藝』第199号 pp. 44-57
- 蔭山峰子 (2012) 「口頭による伝達のストラテジー分析—『わかりやすさ』に関する考察—」『同志社大学日本語・日本語文化研究』第10号 pp. 21-40
- 金慶珠 (2008) 『場面描写と視点—日韓両言語の談話構成とその習得—』東海大学出版会
- 現代日本語研究会 (編) (2002) 『男性のことば・職場編』ひつじ書房
- 近藤邦子 (2004) 「香港の大学における日本語学習者によるストーリーテリングの接続表現の問題点」『早稲田大学日本語教育研究』第5号 pp. 77-92
- 三枝令子 (2006) 「話し言葉における『テ形』」『一橋大学留学生センター紀要』第9号 pp. 15-26
- 酒井峰男 (1997) 「日本語中上級者の「話す能力」を高めるための学習項目—日本語学習者の体験談を通して—」『岡山大学留学生センター紀要』第5号 pp. 35-50
- 佐久間まゆみ (1992) 「接続表現の文脈展開機能」『日本女子大学紀要文学部』第41号
- 庄司恵雄 (2001) 「日本語学習者のストーリーテリングは語彙選択から見て日本語母語話者とどこが違うか」『群馬大学留学生センター論集』第1号 pp. 1-12
- 豊岡愛子 (2002) 「お話しレー(ストーリー・テリング)」の指導: 上級をめざす口頭表現能力育成の事例報告」『日本語教育研究センター紀要』第11号 pp. 79-94
- 栃木由香 (1989) 「日本語学習者のストーリーテリングに関する一分析: 話の展開と接続形式を中心に」『日本語教育論集』第5号 pp. 159-174
- 中井陽子 (2005) 「談話分析の視点を生かした会話授業—ストーリーテリングの技術指導の実践報告—」『日本語教育』126号 pp. 94-103
- 仁田義雄 (2005) 「テ節・中止節」『新版日本語教育事典』大修館書店
- 野田尚史・益岡隆志・佐久間まゆみ・田窪行則 (2002) 『複文と談話』岩波書店
- 深川美帆 (2007) 「接続表現から見た上級日本語学習者の談話の特徴—日本語母語話者と比較して—」『言葉と文化』第8号 pp. 253-268
- 水野義道 (1985) 「接続表現の日中対照—『主従複句』と『条件の接続』—」『日本語教育』第56号 pp. 79-92
- 村上知栄子・塩見式子 (2006) 「上級学習者の口頭伝達能力に関する一考察—ストーリーテリングにおける日本語母語話者との比較—」『山口幸二教授退職記念論集』pp. 291-330
- 渡邊文生 (1990) 「テ形接続の意味と用法」『言語学論叢』第9号 pp. 79-92